

2004年(平成16年)6月4日(金曜日)

静岡

静岡

静岡

静岡

地域

静岡2

「富士宮自然観察の会」受賞

里地里山コンテスト 湿原保全に尽力

人々の暮らしと密接なかわりを持つ里地や里山を守ろうと、優れた活動をしている団体を表彰する「日

本日の里地里山30 保全活動コンテスト」(読売新聞社主催、環境省共催)の受賞二十

団体は三日発表され、県内からは「富士宮自然観察の会」(富士宮市)が選ばれた。

同会は、富士宮市内で開催された自然観察指導員の講習会で出会った会長の仁藤

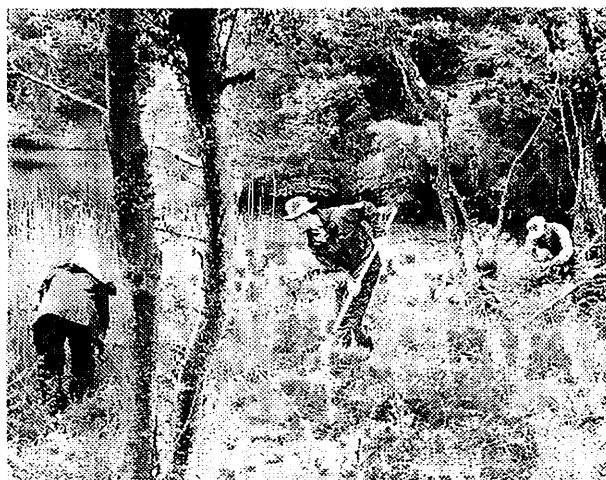
浪さん(66)ら三人のメンバーが、「身近な自然に親しみ、大切に残していこう」と、一九八四年四月に設立。現在、約六十人の会員がおり、参加者を公募して毎月一回、自然観察会を開いている。

設立当初から力を入れていたのは、富士山ろくで唯一の湿原といわれる田貫湖畔の湿地の近くにある小田貫湿原の保全活動。この湿原では、氷河時代から生息するミツガシワなど貴重な水生植物が多数残り、二〇〇〇年から同所で実施した調査では、百三科五百八種の植物が見つかり、二百四十種の標本を採取した。

仁藤さんは「二十年間続けてきた活動が評価されたことは非常にありがたい。今後の励みになる」と顔をほころばせる。

現在、同会では四月から十月までの月ごとに、小田貫湿原で見られる花を地図と写真付きで紹介するパンフレットを作成中だ。

同会は、富士宮市内で開催された自然観察指導員の講習会で出会った会長の仁藤



湿原に入り込んだ樹木や雑草を伐採する会員ら(富士宮市・田貫湖畔で)